

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 郷土を知り学ぶ機会の創出事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111(内291)

E-mail：c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,668 千円 (前年度予算額： 2,385 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,385	915	0	0	0	0	0	0	1,470
要求額	1,668	620	0	0	0	0	0	0	1,048
決定額	1,668	620	0	0	0	0	0	0	1,048

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県図書館は、平成28年度から情報共有・発信型図書館実現に向け、郷土を知り学び、ふるさとへの愛着を育む機会を創出し、県民のふるさとへの誇りや愛着を醸成するための事業を実施している。

令和元年度からは、平成30年度末に策定した「第2次岐阜県図書館の運営方針」に基づき、郷土資料の充実を図り提供するとともに、郷土を知り学ぶ事業を実施する。

(2) 事業内容

- ア. 郷土作家トークイベント（小島信夫文学賞講演会）
郷土作家とゲストスピーカーなどを招き、作品が生まれる背景や思考に関するトークイベントを小島信夫文学賞授賞式と同日に開催する。
- イ. 鹿児島県との連携・交流事業
岐阜県・鹿児島県の文化や歴史を紹介する書籍の展示を実施する。
- ウ. 郷土作家・郷土資料展示
明治、大正、昭和の郷土作家11人を紹介する常設展示と古地図・郷土資料の特集展示を実施するとともに、巡回用パネルにて、県内公共図書館で巡回展示を行う。
- エ. おとなのための岐阜学講座
岐阜県の多面的な魅力を知るための講座を開催するとともに、当該講座の中で、当館所蔵関連図書の紹介を行う。
- オ. ふるさと岐阜 古地図散歩
当館所蔵の古地図を手に県内の歴史の痕跡を学びながら散策する。
- カ. なつかシネマの上映
岐阜県出身作家や岐阜県出身の監督の映画作品をはじめ、当館が所蔵する貴重なVHS等を上演する。

(3) 県負担・補助率の考え方

中核図書館として県において実施することが妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	326	講演会及び講座の講師料等
旅費	118	講演会及び講座の旅費、企画展示の業務旅費等
需用費	314	消耗品費、講師飲料費等
役務費	200	送料、保険料等
委託料	710	講演会場運営委託等
使用料及び賃借料	0	
合計	1,668	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027年度）
政策の方向性 1－（1）①地域や企業等と連携したふるさと教育の展開
- 岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）
基本方針 1－①「ふるさと岐阜」を学ぶふるさと教育の充実
- 第2次岐阜県図書館の運営方針 2 郷土を知り学ぶ機会の創出

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

各事業の実施により、郷土の作家や偉人、民俗、伝統文化等を知る機会を設けることで、県民のふるさとへの誇りや愛着の醸成を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H28)	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①郷土作家トークイベント参加者数（累計）	0人	960人＋ 動画配信	1,081人	1,470人	2,050人	52.7% (動画配信分を除く)
②古地図散歩参加者数（累計）	0人	210人	249人	300人	390人	64%
③岐阜学講座参加者数（累計）	0人	1,006人	1,209人	1,340人	2,050人	59%
④なつかシネ上映会参加人数（累計）	0人	3,652人	4,260人	4,630人	7,860人	54%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	郷土作家トークショー（中村航×河邊徹）、郷土作家展示、岐阜学講座、なつかシネマ、古地図散歩等を実施した。各事業の募集参加状況は好調であり、県民が県出身の作家や郷土の歴史・文化に関心を持つきっかけとなっている。
令和3年度	小島信夫文学賞授賞式・講演会（無観客・オンラインでの生配信）、郷土作家展示、岐阜学講座、なつかシネマ、古地図散歩、郷土作家マップの作成・配布等を実施した。各事業の募集参加状況は好調であり、県民が県出身の作家や郷土の歴史・文化を知る一助となっている。
令和4年度	郷土作家トークイベント（生誕150年記念島崎藤村リレートーク）、郷土作家展示、岐阜学講座、なつかシネマ、古地図散歩、郷土作家マップの配布等を実施した。各事業の募集参加状況は好調であり、県民が県出身の作家や郷土の歴史・文化を知る一助となっている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	県民が郷土に親しみと誇りを持つことは重要であるが、岐阜県出身作家や、岐阜県の風土、歴史遺産に対する県民の認知度は必ずしも高くなく、それを周知する機会や手段がないため、本事業が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	募集定員を設定している事業については、定員以上の応募があり、定員のない事業についても、おおむね目標値を上回る参加があり、成果が上がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	講演・講座については各種関係団体との共催とすることで、テーマに関心を持つ層へ確実に周知されるよう工夫している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>県内図書館との郷土に関する資料の相互利用や、郷土資料研究協議会や古地図文化研究会など関係団体による協力とともに、県の施策に沿った事業展開が必要となる。また、費用・時間の面で来館が不可能な遠隔地の県民のふるさと教育や郷土への愛着を育む面でも巡回展示や講演会記録集などを推進していく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>「清流の国ぎふ」創生総合戦略においても、多くの県民が地域や企業等と連携したふるさと教育の展開を期待している。そのためには、郷土を知り学び、ふるさとへの愛着を育む本事業を継続的に実施する必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	